

「共闘」の時代の革新懇の役割／ 革新懇をどうつくり発展させる

— 2 大テーマを中心に討論 —

都道府県革新懇事務室（局）長会議の初日・全体会。3人の報告（1頁参照）を受けて、討論に入りました。まずは、3都県の事務局長の特別発言。

東京革新懇の今井文夫事務局長は、都内の市民と野党の共闘の発展が、17年以降の10自治体の首長選挙で統一候補を擁立する動きにもつながってきた到達点を紹介しました。東京革新懇は、「情報が伝われば人は動く」との考えから共闘の進展を一覧表にまとめるなど市民への情報提供を重視し、とくに週3回の割合で1000カ所以上に配信する「東京革新懇 mailfax ニュース」が「運動推進に大きな役割を發揮している」と述べました。

神奈川革新懇の齊田道夫事務局長。「市民と野党の共闘」にとって初めてのいっせいで方選（4月）に向けての新しい課題を明らかにするとともに、革新懇づくりのとりくみを発言しました。昨年発行した『神奈川革新懇38年のあゆみ』を活用する革新懇についての学習運動、毎月の代表世話人会のさい「賛同団体との懇談会」を開く、共産党との定期協議の重視など。今年秋の総会までに「全国革新懇ニュース」読者4000人をめざします。

香川革新懇の泉敏裕事務局長は、「革新懇のさまざまな行事に野党各党の代表を招くなど共闘を深化させてきた」と述べました。8市・5町・高松市5校区に革新懇をつくってきた経験を紹介し、多彩な地域要求を実現させる運動を通じ、市民の共同が政治を動かす確信を得た、と語りました。

全体会ではさらに、千葉・柴田英二、大阪・服部信一郎、青森・一戸義規、

新潟・栗田茂男の各事務局長が、共闘づくりに果たす革新懇の役割の大きさ、賛同団体・労働組合の革新懇運動への参加の課題、青年との交流と世代交代への挑戦などについて発言しました。

4 分散会で多彩な交流、討論 — 決意も悩みも

2日目は4つの分散会に分かれて、交流・討論を深めました（写真）。

震災復興を最大の課題に知事選、国政選挙で共闘を生んできた（岩手）、全選挙区に統一候補を追求（東京）、ニュース発行、宣伝物など敷布団の役割で信頼関係をつくっている（広島）、市民と強くつながっている地域革新懇は元気（愛知）、首長選挙でも共闘をつくりだし革新懇の役割を發揮していく（東京、広島、島根、奈良）、市民連合とつながりのある革新懇運動をつくりたい（静岡）など市民と野党の共闘の発展へむけた各地の経験が語られました。

革新懇は「総体」としての運動だということを賛同団体の間にさらに広げたい（香川）、各団体との交流を本格的に進めていく（滋賀）、63自治体中28自治体にあるが、新しい革新懇を全自治体でつくる（埼玉）、県ニュースを手渡し、対話を重視して全国ニュースを増やす努力をしている（栃木）など、運動を大きくしていく必要が語られました。

信用できるかわからない相手と一緒に共闘しようと努力しているが、模索中（岐阜）、専従の事務局長がいないので、革新懇運動をつかみきれていないのが課題（和歌山）、賛同団体の世話人会議への参加率が低い（宮城）、共産党との連携や、共産党の県・地区機関の統一戦線運動へのとりくみにかかわっての問題や要請（各地）など、運動の悩みも出されました。

沖縄からは、県民投票成功の見通しについての発言がありました。また、自民党の支持基盤が崩れつつある農村・漁村での革新懇運動の可能性について、多くの県の事務局長や助言者の五十嵐仁代表世話人が問題提起しました。

